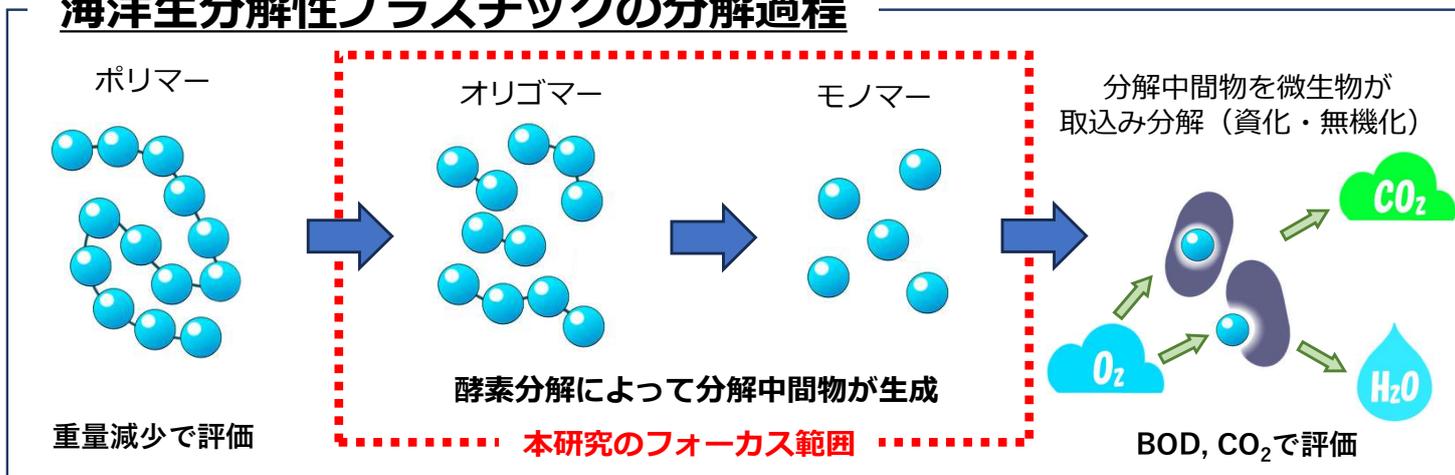


# 海洋生分解性プラスチックの分解過程を視える化！

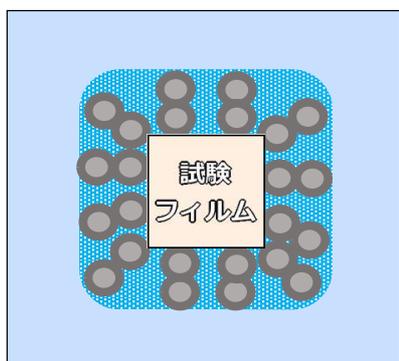
## 海洋生分解性プラスチックの分解過程



## 成果

※本技術は特許出願中です

1. 質量分析技術によって20量体までのオリゴマーが分析可能に
2. 海洋生分解試験で分解中間物を検出



生分解試験後の「海水」 → 検出せず



バイオフィルムの隙間に存在する水「間隙水」  
→ **モノマーのみ**検出



バイオフィルムおよび試験フィルム表面  
「バイオフィルム抽出液」  
→ **モノマーから11量体まで**を検出  
(間隙水よりも2桁高濃度)  
(モノマーはオリゴマーの4~5倍)

3. 生分解速度制御への重要な情報の提供が可能

「相対速度」 酵素分解 > 資化

「コポリマーの構成単位に関する分子構造的相同性」

モノマー比率の比較（分解中間物≒製品中）

4. 海洋生分解性プラスチックの社会実装で求められる**生態毒性評価**にも有用

この成果は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の委託業務（JPNP20008）の結果、得られたものです。

## お問い合わせ先

株式会社 **島津テクノリサーチ** 環境事業部

京都本社 TEL 075-811-3183 (直通)



\*最新の情報は、Webサイトでご確認ください。